

俳優の野際陽子さんがかなくなった。突然の訃報に誰もが驚いたことだろう。野際さんは、撮影中のドラマ「やすらぎの郷」に出演していた。このドラマ、内容もさることながら、「やすらぎ体操」なる曲の歌詞が秀逸で心に響くと話題だ。今日も生きている。それが人生。明日は分からない。それも人生……。



# これも、あれも、それも人生

## 追悼

### 野際陽子さん死因は肺腺がん。仕事と闘病を両立させる最新治療

「キイハンター」や「トリック」など人気ドラマに多数出演した俳優の野際陽子さんが6月13日、肺腺がんのため東京都内の病院で亡くなった。81歳だった。

がんが見つかったのは3年前。娘の真瀬樹里さんのフェイスペインクによる、2度の手術と抗がん剤治療を受けたという。ドラマの撮影中の5月8日に肺炎を

初期症状が出にくいのが特徴」と説明する。獅童さんは定期的に受けている人間ドックで判明したという。気になるのは、治療についてだ。野際さんが手術を受けたのは70代後半と、高齢だ。体への負担について、肺がん手術の名医で呼吸器外科医の岡田守人医師（広島大学教授）は「今は傷が小さく高齢者にも負担が少ない胸腔鏡手術が普及している。完全切除が可能なケースなら進行していても手術を選択することが多い」と答える。手術を2度受けた点は「新たにがんができたか、がん近くのリンパ節に転移したか、どちらかと考えられます」と推測する。手術後に抗がん剤治療を受けていた野際さん。仕事と治療を両立させていたようだが、薬物治療に詳しい国立がん研究センター中央病院呼吸器内科長の大江裕一郎医師は言う。

「今は、がんの遺伝子変異によって薬を使い分けるのが一般的。最新の免疫チェックポイント阻害薬も使われます。抗がん剤は副作用が辛いイメージがありますが、副作用が軽い抗がん剤も普及し、副作用を抑える治療法も進化しています。個人差はありますが、薬物治療を受けながら仕事を続ける方も大勢います」ところで、肺がんといえ

ば喫煙が最大のリスクと言われる。野際さんも「若いころはたばこを吸っていた」（芸能記者）と喫煙歴がある可能性も。肺腺がんは非喫煙者や女性が多いため、「喫煙者の免許符になつている」（寺本医師）ようだが、最近では喫煙で肺がダメージを受けて発症するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の軽症の人に、肺腺がんのリスクが高いことが明らかになっている。岡田医師も「喫煙の影響が大きいのは扁平上皮がんですが、肺腺がんも喫煙がリスクに挙げられる」と指摘する。

### 陸上日本選手権100m 9秒台出るか？

### 桐生？山縣？ケンブリッジ？本命は多田！

桐生、出るぞ、出るぞ。次こそ出るぞ。まるでお化けのようになつてきた陸上男子100mの9秒台。日本勢初の快挙を巡る争いに、関西のイケメン大学生が名乗りをあげた。関西学院大3年の多田修平（20）だ。

6月10日の日本学生個人選手権。多田は準決勝を9秒94で駆け抜けた。追い風が秒速4・5m/sで公認上限の2・0m/sを超えていたた

め、公認記録にはならなかったが、多田は手こたえを感じていた。「走ってる感覚がいつもと違いましたね」

なにしろ追い風参考でも、国内で日本選手が100分の1秒まで表示される電気計時で9秒台を出したのは初めてだった。

続く決勝でも、強さを証明した。追い風1・9m/sの好条件の中、自己ベストを